

北野天満宮参拝の栞



Kitano-Tenmangu



三光門



交通

名神高速道路南インター又は東インターより約30分
JR京都駅より市バス⑤⑩/JR円町駅より市バス②④
JR・地下鉄二条駅より市バス⑤⑨/地下鉄今出川駅より市バス⑤⑩・⑫・⑭
京阪出町柳駅より市バス⑫・⑭・⑯/京阪三条駅より市バス⑩
阪急大宮駅より市バス⑤⑨/阪急西院駅より⑭
近鉄大宮駅より市バス⑤⑩ ※いずれも北野天満宮下車すぐ
京福電車北野白梅町駅より徒歩5分

駐車場

無料駐車場完備(駐車は、参拝時間内に限ります。)
・大型バス/50台 ・乗用車/300台
開場時間/午前9時より午後5時まで
・時間を前後される時は、あらかじめ到着予定時刻を社務所にご連絡下さい。
・毎月25日は、縁日のため駐車できませんのでご了承下さい。

お問い合わせ

北野天満宮 社務所

TEL.075-461-0005 FAX.075-461-6556

URL:<http://www.kitanotenmangu.or.jp>

〒602-8386 京都市上京区馬喰町

菅原道真公

菅原道真公は、幼少の頃より学業に励み、情緒豊かな和歌を詠み、格調高い漢詩を作るなど優れた才能の持ち主でした。学者出身の政治家として卓越した手腕を発揮し、異例の出世を重ねられた菅公は、昌泰二年（八九九）右大臣の要職に任命され、左大臣藤原時平と並んで国家の政務を統括されます。ところが、突如藤原氏の策謀により、昌泰四年（九〇二）大宰権帥に左遷され、そのわずか二年後、大宰府の配所にて波乱の生涯を閉じられました。

菅公の清らかで誠実な人柄と晩年の不遇はさまざまな伝説を生み、やがては天神さまと崇められ、現代でも盛んな信仰へと展開します。菅公の精神は「和魂漢才」の四文字に集約されるように、自国の歴史と文化にしっかりとした誇りを持ち、他国の文化も受け入れる寛容さが特徴です。菅公が生涯貫かれた「誠の心」は、今も日本人の心に生きていると思います。

天神さまは暮らしと共に

天神さまは、わらべ歌「通りゃんせ」でも知られるように、遊びの中に慕われるほど身近ですが、古くは「雷神」と結びつき、神鳴さまとおそれられ、稲妻・稲光の語から雨をつかさどる「火雷神」として、豊年を祈る人々の信仰を集めてきました。

また、弘法大師や小野道風らとともに書道の三聖と称され、今も正月の書初め「天満書」には子供たちが力作を奉納し、書道上達が願われています。北野の界限は昔から芸能興行が盛んで、観世太夫が演じた猿楽や出雲阿国の歌舞伎踊、また謡曲、三味線、浄瑠璃、落語などが人気を博し、庶民の歌で広く愛好されました。さらに毎月二十五日の縁日は、「天神市」、「北野市」などと呼ばれ、辺りには数多くの露店が立ちならび、大勢の人々で賑わいます。

天神さまの主なき神徳は、五穀豊穡、学業成就、技芸上達、災難、厄除など枚挙にいとまがありませんが、今日もその靈験を乞い願う人々の参詣はあとが絶えません。

菅公御歌

美しや紅の色なる梅の花 あこが顔にもつけたくぞある
東風吹かば匂ひおこせよ梅の花 あるじなしとて春を忘るな
このたびは幣もとりあへず手向山 紅葉の錦神のまにまに
海ならざたたる水の底までも 清き心は月ぞてらさむ
心だに誠の道にかなひなば いのらざとも神やまもらむ



宝物殿のご案内

宝物殿では、千有余年の天神信仰を物語る貴重な神宝類・奉納品を収蔵しています。

天皇の宸翰をはじめ、絵巻物、書画、刀剣、絵馬などの数は膨大な量を誇り、まさしく文化財の宝庫、天神美術の殿堂と呼ばれる所以がここにあります。なかでも国宝「北野天神縁起絵巻」（藤原信實本）はその名を海外に轟かせています。

現在、常設展や特別陳列にて「日本書紀」（下部兼永本）や「弁慶・昌俊図絵馬」（長谷川等伯筆）、「北野大茶湯図」（浮田一蕙筆）など重要文化財級の神宝の展示公開につとめています。

通常開館日

一月一日、十二月一日、毎月二十五日
観梅シーズン（二月月上旬～三月下旬）
四月十日～五月三十日
紅葉シーズン（十一月月上旬～十二月月上旬）

開館時間

午前九時より午後四時まで

拝観料

一 一般 三〇〇円
中・高校生 二五〇円
小 人 一五〇円

*団体拝観（三十名様以上）の場合は、開館期間外でも受付します。（事前予約を要す）



北野天満宮 由緒

ご祭神

菅原道真公
すがわらのみちざねとう

中將殿(道真公のご子息)

吉祥女(道真公のご夫人)

北野天満宮は、菅原道真公(以下「菅公」と記します)をおまつりした神社の宗祀で、親しみを込めて「北野の天神さま」と呼ばれています。

平安時代中頃の天暦元年(九四七)に、京都に住んでいた多治比文子や近江国(滋賀県)比良宮の神主神良種、北野朝日寺の僧最珍らが、当所に神殿を建て、菅公をおまつりしたのが始まりとされます。その後、藤原氏により大規模な社殿の造営があり、永延元年(九八七)に一條天皇の勅使が派遣され、国家の平安が祈念されました。この時から「北野天満宮天神」の神号が認められ、寛弘元年(一〇〇四)の一條天皇の行幸をはじめ、代々皇室のご崇敬をうけ、国家国民を守護する靈験あらたかな神として崇められてきました。

江戸時代には教育施設として各地に読み書き算盤を教える寺子屋が普及し、その教室には必ず天神さまがおまつりされ、あるいは神影(菅公のお姿を描いたもの)が掲げられ、学業成就や武芸上達が祈られてきました。現在、全国各地には菅公をおまつりした神社が、およそ二万二千社とも言われ、その多くは当宮から御霊分けをした神社であります。菅公は世々に「文道の大祖・風月の本主」と仰ぎ慕われ、学問の神様としての信仰は昔も今も変わることなく人々の生活のなかで受け継がれています。

おもな祭典行事

一月	二月	四月	六月	八月	十月	十二月	毎月
一日 歳旦祭	二十五日 梅花祭	上旬 古絵馬焼納式	二十五日 御誕辰祭	四日 例祭(大祭)	一日〜五日 ずいき祭	一日 献茶祭	二十五日 菅公ご縁日
新しい年のはじまりを祝う祭り。 書家菅公の神徳をたたえる祭り。	菅公の祥月命日の祭り。	旧年の祈願絵馬をお祓いして 焚き上げる神事。	菅公の誕生日を祝う祭り。	一條天皇の勅祭故事にちなむ祭り。 農耕儀礼の祭り。慣例にならない 祭礼行列あり。	詩人菅公の神徳をたたえる祭り。 全国から集められた献詠歌を 披露する。	豊臣秀吉の催した北野大茶之湯の 故事にちなむ祭り。 境内で調製した梅を新年を祝う 大福梅として授与する。	毎月二十五日に菅公の神徳をたたえる祭り。 菅公は承和十一年(八四五)六月二十五日に誕生し、 延喜三年(九〇三)二月二十五日にお隠れになる。 一月の縁日を「初天神」、 十二月の縁日を「終い天神」と呼ぶ。
							
▲野点茶会		▲古絵馬焼納式		▲ずいき祭		▲献茶祭	

神使「牛」

菅公は丑年生まれで、牛と結びつける様々な逸話が伝承されています。例えば、国宝「北野天神縁起絵巻」には、父是善卿との出会いの場面をはじめ随所に牛が描かれていて、後世人々が菅公と牛の関わりをどれほど重視していたかを知ることができます。

当宮では境内いたるところに臥牛横たわった牛の像があり、古くから「丑の日」の参拝も盛んで、牛は神使として、天神さまと私たちをとり結ぶ役割を担っています。





- 1 宝物殿
- 2 社務所
- 3 守札授与所
- 4 和魂漢才の碑
- 5 茶室 明月舎
- 6 西陣名技碑
- 7 紙屋川
- 8 梅苑・もみじ苑入口
- 9 絵馬掛所（牛社）
- 10 納札所
- 11 絵馬所（休憩所）
- 12 さざれ石
- 13 露の五郎兵衛の碑
- 14 影向松
- 15 梅苑・もみじ苑入口
- 16 梅苑
- 17 茶室 松向軒
- 18 茶店
- 19 お手洗（障害者用）
- 20 車椅子用スロープ

19 御土居（史跡）

境内西側を流れる紙屋川ぞいには豊太閤（豊臣秀吉）が洛中洛外の区分と水防のために天正十九年（二五九）に築いた御土居の名残があり、史跡に指定されています。

20 右近の馬場

東側の堀外帯は右近衛府の馬場の跡であり、右近衛大将でもあられた菅公は好んでこの馬場に臨まれたと言います。また平清盛がこの地で催された馬市で名馬を見立て愛用した、とも伝えられています。

21 北野大茶之湯の碑

現在、駐車場となっている辺りは天正十五年（五八七）豊太閤が有名な北野大茶之湯を催された旧跡で、その時茶の水を汲んだと伝えられる「太閤井戸」は楼門下東側に「三斎（細川忠興）井戸」は茶室松向軒内に現存しています。

梅苑・もみじ苑公開のご案内

京都屈指の景勝地で知られる当宮は、春には梅苑、秋にはもみじ苑を公開しています。

平安時代を代表する詩人菅公は、花や草木にも心を感じ、数々の名歌を世に遺されており、なかでも梅や紅葉を吟じた歌は今日も多くの人に読みつがれています。

北野の神域では、新春百花に先駆けて花咲く梅花や錦秋色鮮やかに装う紅葉が菅公を偲ぶよすがとして美しい景観をあらわし、訪れる人々を安らぎの世界へと誘います。

■公開期間

＊梅苑 二月上旬～三月下旬

＊もみじ苑 十二月上旬～十二月上旬

■開苑時間

通常 午前十時より午後四時まで

特別 見頃時に夜間ライトアップ

（事前確認を要す）

■入苑料 大人 六百元（茶菓子付き）
小人 三百円



国宝 社殿

平安期に創建された社殿は、その後朝廷や幕府・有力武将がその造営修理に当たりました。現在の社殿は、慶長十二年（一六〇七）に豊臣秀頼が造営したもので、秀吉からの継続事業の一端であったと言われます。

社殿の様式は権現造と称され、本殿、石の間、拝殿および衆の間などを連結し、雄大な松皮葺のお屋根を架けたことが特徴で、棟木が複数あることから八棟造とも呼んでいます。

中門（三光門）、東門、校倉などとも同時期の建造物で、本殿とともに桃山文化を代表する神社建築として今に伝えています。

昭和三十一年（一九五六）、本殿・中門・東門は重要文化財に、つづく昭和三十四年（一九五九）、本殿は国宝に指定されています。

